

中国人民銀行・利下げを発表

中国人民銀行(中央銀行。以下 PBOC)は 2015 年 2 月 28 日、同行 HP 上で人民元預金・貸出基準金利の引下げ、並びに人民元預金上限金利の引上げを発表した。

1. 発表内容

(1) 人民元預金・貸出基準金利引下げ

(単位;%)

	変更前		変更後	変更幅
1. 預金金利				
(1) 流動性預金	0.35		0.35	不変
(2) 定期預金				
3ヶ月	2.35	3ヶ月	2.10	-0.25
6ヶ月	2.55	6ヶ月	2.30	-0.25
1年	2.75	1年	2.50	-0.25
2年	3.35	2年	3.10	-0.25
3年	4.00	3年	3.75	-0.25
2. 貸出金利				
1年以内	5.60	1年以内	5.35	-0.25
1年超5年以内	6.00	1年超5年以内	5.75	-0.25
5年超	6.15	5年超	5.90	-0.25

(2) 預金上限金利 ; 基準金利の 120%から 130%へ引上げ

(3) 実施日 ; 2015 年 3 月 1 日

2. 利下げの背景

今回の利下げは 2014 年 11 月以来、3 ヶ月余りで 2 度目となる。今回の金融緩和局面では、昨年 11 月の人民元預金・貸出基準金利の引下げ、今年 2 月の人民元預金準備率引下げに次ぐ緩和措置となる。昨年 10-12 月期の実質 GDP 成長率が前年同期比+7.3%と、7-9 月期の同+7.3%から横ばい、年初来では+7.4%と 2014 年度政府目標の+7.5%前後で着地したものの、年明け以降の経済動向からは不動産市況の底入れにも今暫く時間が必要と思われる中、未だ経済の減速感を完全に払拭できる状況にはない。

PBOC は発表の中で、昨年 11 月の人民元預金・貸出基準金利引下げが資金調達コスト引下げにある程度効果を発揮したが、経済構造の変化や国際的商品市況の大幅低下、消費財価格の下落などで実質金利の上昇につながっていると分析している。その上で、今回の対応の「重点」を①引続き基準金利の誘導作用を発揮させること、②社会融資コスト低下効果を一層強化すること、③経済構造調整とモデルチェンジとレベルアップのため中立的且つ適度の通貨金融環境を創出すること、としている。

今回の発表では、デフレリスク回避について特段の強調はされていないが、今年 1 月の消費者物価指数は前年同月比+0.8%と、昨年政府目標の+3.5%※を大幅に下回り歴史的低水準にあるなど、社会融資コストの更なる引下げの為の追加金融緩和に対し、物価動向面からもその余地が提供されていることも、今回の追加利下げの背景の一つとなっていよう。また今月 25 日に開かれた国務院常務会議では、小規模企業へ減税措置を伴う成長支援を発表するなど、財政・金融両面からの木目細かな景気下支え姿勢も窺わせている。

※2015 年のインフレ率政府目標は 3 月開催の全国人民代表大会で決定される

また前回同様、人民元預金・貸出基準金利の引き下げと同時に預金上限金利の引き上げを行っている。金利市場化改革の観点から、預金や貸出金利の決定に際し、金融機関の裁量余地を一段と増やし、より市場原理に基づいた金利の市場化・自由化とその加速を意図したものであること、導入準備中の預金保険制度とも関連付けられることも、PBOC の発表内容から窺い知れる。また今回の利下げが貨幣政策の転換を意味するものでは無く、目下の経済情勢全般を踏まえた穏健且つ中立的な金融政策の一環である点も PBOC は引き続き強調しており、今後も「新常态」への移行過程で、経済環境を踏まえたマイクロ・マクロ両面からの丁寧な政策運営が継続するものと思われる。

以上

作成 : 三菱東京 UFJ 銀行(中国)有限公司 環球金融市場部 021-6888-1666 ex) 2910~2918

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなされるようお願い致します。当資料は信頼できる情報に基づき作成したのですが、その正確性、安全性を保証するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料は使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。尚、当資料の無断複製、複写、転送はご遠慮下さい。当方の都合で、本レポートの全部または一部を予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。